評価結果報告書
「触原色に立脚した身体性メディア技術の基盤構築と応用展開」

総合評価

ACCEL での研究開発推進は適切である。

視覚に対する三原色と同様、触覚を圧力・振動・温度の三分割して伝送するという触原色原理技術は、世界をリードする研究成果である。触覚が視覚、聴覚に次ぐ第三の「身体性メディア」として確立されれば、社会的・経済的インパクトを与えるイノベーションが創出される。本研究グループは、研究成果の優位性に加え、触覚技術の研究開発で実績を上げてきた我が国のトップクラスの研究者や企業から構成されており、それぞれが得意とする分野を統合することで、新しい社会的価値・産業的価値が創成される可能性が高い。

実用化に向けた必要な企業との連携は、さまざまな形で既に始まっている。さらに、オープンイノベーションに向けたサイバーリビングラボの構築やコンソーシアムの設立により、ユーザー視点を組み入れた技術に成熟するものと期待される。

身体性メディアの基盤プラットフォームとなる国際標準を確立し、広く世界に普及させるには、触覚伝送技術を実際に体験可能な製品・サービスを早期に創出・提供し、オープンイノベーションを実現する必要がある。

平成 26 年 12 月 15 日
研究開発運営委員会　委員長
東京大学　理事・副学長
松本　洋一郎